

平成28年度 調布市立第三小学校 学校評価報告書

様式1

領域	自己評価結果の概要	学校関係者評価結果の概要	次年度への改善策	次年度優先順位
学力向上	<p>○学年相応の基礎的な学力をつけているか。 ・児童・保護者・教員3者全てがAよくあてはまる、Bややあてはまるを合わせると90%を超える結果であった。</p> <p>○算数ノートの努力賞を約603枚以上授与することができた。</p>	<p>○データから学力がついているととらえている。保護者から「高学年に向けて家でも宿題以外の復習を毎日少しずつ行うようになってきた。」という声が寄せられている。繰り返し指導を回りながら基礎基本の定着、応用力を伸ばしてほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究教科でもある算数科において、一人一人の力を伸ばす取り組みを徹底させる。 ・3学年・4学年とも年間11単位時間の外国語活動を意図的・計画的に行う。 	B
	<p>○普通の授業が分かりやすいと感じているか。 ・児童・保護者・教員3者全てがAよくあてはまる、Bややあてはまるを合わせると90%を超える結果であった。</p> <p>○宿題・予習復習を家庭で行う習慣が身に付いているか。 ・Aよくあてはまる、Bややあてはまるを合わせると教員は95%、児童は90%、保護者は85%であった。</p>	<p>○データから分かりやすい授業がされているととらえている。保護者から「子供たちの興味関心を引き出し自ら学びたいという気持ちにさせ、考える力を育てる授業に感謝」「授業は分かりやすいと家庭でも言っている」というお声が寄せられている。教員には更に授業力向上を目指す努力を望む。</p> <p>○データから家庭学習がほぼ定着しているととらえている。保護者から「宿題を家庭や学童で勉強し学習習慣が身に付いている」「宿題の丸付けを保護者がするのは、状況把握やコミュニケーションの意味でもよい」というお声が寄せられている。「放課後の習い事などとの両立が難しい」という意見もある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律を徹底させる。(三小スタンダード) ・電子黒板等ICT教育を活用して子供が「分かった」「できた」「もっとやりたい」という授業づくりに励む。 ・アクティブ・ラーニングの視点で主体的、対話的、深い学びを実感できる授業を創造する。 ・「家庭学習のすすめ」を徹底させる。 ・子供の実態に合わせて量、質ともバランス良く宿題を出す。(10分×学年) 	B
健全育成	<p>○友達と仲良く遊んだり勉強したりして楽しく学校生活を過ごしているか。 ・Aよくあてはまる、Bややあてはまるを合わせると児童と保護者は95%を超える結果であった。教員は約80%であった。</p>	<p>○データから子供同士の人間関係は適切につくられているととらえている。保護者から「友達との出来事を話してくれる」「トラブルの解決法や欠席した友達のことを考える力を身に付けてきている」「帰宅してから友達とよく遊んでいる。」というお言葉が寄せられている。楽しく学校生活を送っていると感じている。児童・保護者が多い。教員も児童一人一人を丁寧に見取り、指導しようと取り組んでいる。今後も継続してほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ防止対策基本方針」の下に、より一層いじめの未然防止、早期発見、早期解決に努め、すべての子供に居場所があり、居心地の良い学校にする。 	B
	<p>○豊かな心が育っているか。 ・Aよくあてはまる、Bややあてはまるを合わせると保護者は95%を超え、教員はほぼ100%という結果であった。</p>	<p>○データから豊かな心は育ってきているととらえている。「先生の適切な対応と言葉かけのお陰で子供が誠実に育っている。」「各行事で子供たちが協力しあうことを学べる機会、勇気を作ってください、とても感謝している。」「先生方のお陰で小学校生活を楽しみ、人を大切にする心も育むことが出来た。」というお言葉を頂いている。今後も道徳の学習等をより一層充実させて豊かな心を育ててほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育推進教師を中心に道徳教育を推進する ・全体計画・年間指導計画・別業を活用し、「考え、議論する道徳」を推進する。 ・スクールカウンセラー、特別支援教育コーディネーター等を中心に関係諸機関と連携を強化し、児童の多様な課題に対応する。 ・学校と家庭の連携推進事業の支援員やスーパーバイザーの支援による個別指導体制の充実を図る。 	A
健康・体づくり	<p>○お子さんは学年相応の体力が身に付いているか。 ・Aよくあてはまる、Bややあてはまるを合わせると児童は約90%、教員は95%であった。保護者は約80%であった。</p>	<p>○児童、教員は学年相応の体力が身に付いているととらえている。保護者から「無理のない頻度で体力作りを継続的に行っている」という声が寄せられているが、保護者の満足度は約8割である。今後、体力向上の成果を伝えたり公開したりすることにより、保護者の満足度を上げていくことを望む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マラソン旬間、なわとび旬間などを活用して目標に向かって努力し、成果が実感できる取組を行う。 ・わくわくタイムの更なる充実を図り、体力向上及び運動の日常化に取り組む。 ・ロング休みを活用し、外遊びの必要性について指導する。 ・体力テストの結果、すべての学年で握力に課題があることが判明した。「握力強化」のためにスポーツ庁委託事業「子供の体力向上課題対策プロジェクト」に参加する。 	B
	<p>○食育の指導やアレルギー事故防止に対する取組を行っているか。 ・Aよくあてはまる、Bややあてはまるを合わせると児童・保護者・教員3者全てが90%を超える結果であった。特に、教員はAよくあてはまるが95%を超える結果であった。</p>	<p>○データからアレルギー事故防止や食育の指導が行われているととらえている。保護者から「給食が好きでよく食べている。」「毎日おいしかった、と言っている。メニューを見るだけで様々な料理、季節のメニュー等色々考えられていると感じる。」というお声が寄せられている。また、「ゆっくり食べるように家庭でも言っている」というご協力の声も頂いた。保護者から「」という声が寄せられている。これからもアレルギー事故防止に細心の注意を払い、家庭と連携しながら食育を進めてほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と学校が連絡を密にとり、アレルギー事故ゼロを継続させる。 ・アレルギー研修、アレルギー緊急対応訓練を確実にを行い、アレルギー事故ゼロを継続させる。 ・12月の「いのちと心の日」の指導を通して子供たちにいのちの大切さを実感させると共に、より多くの方に授業をご覧いただけるように働きかける。 ・「子供たちの健やかな心や体の育成のために」に基づき、保健の視点、食育の視点、人権の視点において指導の徹底を図る。 	C
保護者・地域との連携	<p>○学校は情報発信を適切に行っているか。 ・Aよくあてはまる、Bややあてはまるを合わせると保護者、教員の両者が90%以上であった。特に、教員はAよくあてはまる、Bややあてはまるを合わせると100%という結果となった。</p>	<p>○データから情報提供の状況が十分ととらえている。保護者から「ホームページが充実している」「掲示物が教育的」という声が寄せられている。さらに、保護者、地域に向けて情報発信を行うっていくことを望む。また、「翌月上旬分を加えて早めの連絡を」というご意見については対応をするようにしてほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校長通信、ホームページの更新を週に1回以上行い、より一層情報提供に努める。 ・臨海学園、移動教室の折りには速報で様子を知らせる。 ・学校だより、学年だより等で持ち物、下校時刻などを知らせる。 ・学級だよりは必要に応じて発行する。 ・台風等の対応については、市の方針を受けて年度当初に確認文書を出すとともにホームページに掲載し、いつでも見られるようにする。 	A
	<p>○地域や保護者と連携して学校教育を行っているか。 ・Aよくあてはまる、Bややあてはまるを合わせると保護者、教員の両者が95%を超えた。特に教員はAよくあてはまる、Bややあてはまるを合わせると100%という結果となった。</p> <p>○「おはよう、ありがとう、ごめんあいさい、さようなら」等の挨拶が進んでできるか。 ・Aよくあてはまる、Bややあてはまるを合わせると児童・保護者・教員3者全てが90%を超える結果であった。</p>	<p>○データから地域や保護者との連携は十分行われているととらえている。保護者から「地域と合同防災訓練を毎年行っているのはよいことだと思う。」「地域行事に先生方が参加していただき、学校、家庭、地域の連携がうまくいっていることを行事の度に感じる。」という言葉が寄せられている。ゲストティーチャー、出前授業も効果を感じているという意見もあり、今後も活用を継続していくことを望む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の皆様、地域の皆様の協力に感謝している。より一層連携を密にして健やかな子供の成長を図る。 ・ちょうふ花園で高齢者と交流をすることができたのでこれからも継続させる。 ・ゲストティーチャーや地域の施設を活用した学習を計画的に進める。 ・農業体験を行うことができたので継続していく。 	A
特色ある教育活動	<p>○自分を大切にしたり、他に対して思いやりの気持ちをもって接することができるか。 ・Aよくあてはまる、Bややあてはまるを合わせると90%を超える結果であった。</p> <p>○読書の習慣が身に付いているか。 ・Aよくあてはまる、Bややあてはまるを合わせると教員は95%を超え、児童は80%保護者は約70%であった。</p>	<p>○データからおもいやりの心は育っているととらえている。保護者から「高学年が低学年のお世話、行事の手伝い、片付けなど、全体を気遣えるよい取組だと思う。」「男女関係なく皆が仲良く明るくとてもよい雰囲気であることがうれしい。公園でも声をかけて一緒に遊んでくれる。とてもやさしい子供たちだと思う。」「という声が寄せられている。これからもより一層連携を深めて取り組み思いやりの心を育てることを願う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仲よしタイム、仲よし広場、全員遊び等を通して人間関係を深める。 ・PTA読書サークル「とらいあんぐる」の読み聞かせを活用する。 ・図書委員会による読み聞かせを導入する。 	B
	<p>○オリンピック・パラリンピック教育を推進する取組を行っているか。 ・Aよくあてはまる、Bややあてはまるを合わせると教員は80%、保護者は約75%であった。</p> <p>○オリンピック、ラグビー協会、近隣の大学駅伝部、なわとびギネスの持ち主を招いての指導を行った。</p>	<p>○データからオリンピック・パラリンピック教育の推進が十分とは言えない。保護者から「いろいろなスポーツに触れらる機会を作られて新しい興味がわき、世界が広まってとてもよい。」「という声が寄せられている反面、「何の取組をしているのかわからなかった。」という声もあった。東京オリンピック・パラリンピックに向けて、全体計画・年間指導計画の下、指導し、保護者、地域には今まで以上に学校だより、ホームページ等で知らせ、更なる周知を願う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックに向けて「4×4の取組」を行う。 ・4つのテーマ「オリンピック・パラリンピックの精神」「スポーツ」「文化」「環境」 ・4つのアクション「学ぶ(知る)」「観る」「する(体験・交流)」「支える」 ・5つの資質を重点的に育成する。 ・「ボランティアマインド」「障害者理解」「スポーツ志向」「日本人としての自覚と誇り」「豊かな国際感覚」 ・オリンピック・パラリンピアン招致、大使館との連携を図る。 	A